

性質別歳出 用語の説明

- ▶ **人件費** 職員の給与、議員の報酬などの経費
- ▶ **扶助費** 高齢者福祉や児童福祉など社会保障に必要な経費
- ▶ **公債費** 借金返済のための経費
- ▶ **物件費** 消耗品や備品購入、委託料などの経費
- ▶ **維持補修費** 施設の維持補修のための経費
- ▶ **補助費等** 各種団体への補助金や負担金などの経費
- ▶ **投資的経費** 公共施設の整備、改修に必要な経費
- ▶ **積立金** 将来の財源不足や支出に備えて積み立てる経費
- ▶ **繰出金** 特別会計へ支出するための経費

一方、《補助費等》では、病院事業会計への負担金が大きいです。前年度と比べ5億6,482万円の減額となったほか、《繰出金》も下水道事業費が縮小したことから1億9,033万円の減額となりました。

これを性質別に分析すると、子ども手当の創設や公債費の繰り上げ償還をおこなったことより《義務的経費》において8億5,482万円の増額、国の経済対策事業で普通建設事業費が伸び《投資的経費》が5億9,980万円の増額となりました。また、選挙費や除雪経費などの伸びにより《物件費》が1,786万円の増となったほか、減債基金、特定目的基金への積立により《積立金》が8億2,374万円の増額となりました。

歳出

歳出決算額は2022億2,285万円で、前年度と比べ15億574万円(5.6%)の増額となっています。

実質6億円の黒字決算

歳入歳出差引額は、11億7,300万円で、このうち23年度に繰り越した事業に必要な財源を差し引いた実質収支は、6億731万円の黒字決算となりました。

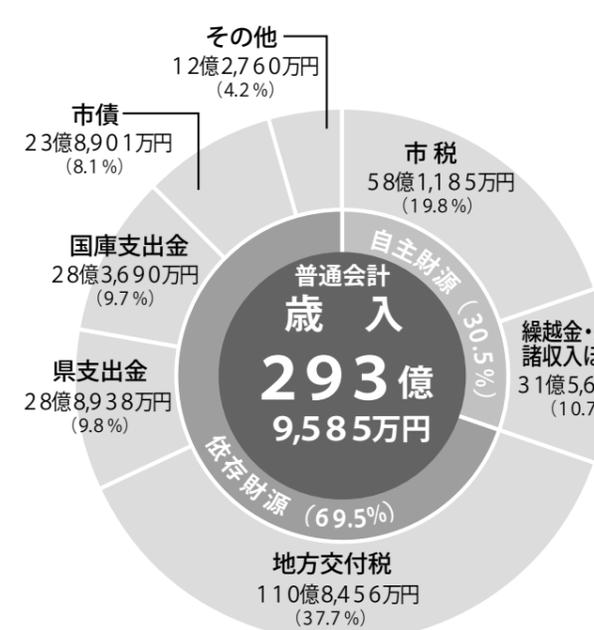
平成22年度は、国の経済対策に歩調を合わせながら、また経済対策による交付金を財源として、地域経済の活性化と活力ある地域づくりに積極的に取り組んでまいりました。しかし、国の経済対策による交付金は一過性のものであり、自主財源の柱である市税が回復基調に転じるまで、引き続き厳しい財政運営が強いられています。今後とも国や県の動向を注視しながら、引き続き、効果的な財政運営を念頭に、限られた財源の中で、住民福祉の向上に取り組んでまいります。



平成22年度

決算

図財政課 ☎(25)8111



※おことわり…表やグラフの金額は、1万円未満を切り捨てているため、合計が一致しない場合があります。

歳入

平成22年度の普通会計の歳入決算額は、293億9,585万円で、前年度に比べ16億1,764万円(5.8%)の増額となっています。歳入全体の75%を占める一般

財源は、220億8,249万円で、このうち、臨時財政対策債を含む経常一般財源(毎年経常的に収入される一般財源)は、186億2,975万円で、前年度と比べ8億5,606万円の増額となっています。これは、地方交付税が5億141万円増額となったことや、償還費用が後年度の地方交付税に算入される臨時財政対策債が5億3,575万円の増となったことがあげられます。また、病院整備事業に対する公共投資臨時交付金など、国の財源を伴う県支出金が12億5,564万円増と大幅な伸びとなっている反面、市税については6,879万円の減で、特に個人市民税の減収が大きく影響しています。

国の経済対策に歩調を合わせながら、効率的、効果的な財政運営に努める！

平成22年度、どのような事業や施策に予算が使われたのか、その概要をお知らせします。